

科目名： 日本国憲法

担当教員： 井口 秀作(IGUCHI Shusaku)

【授業の紹介】

憲法という特殊な法の存在意義を確認したうえで、具体的な事例と関連づけながら、日本国憲法の基本的な構造について解説を行う。個人の尊厳を中核とする立憲主義がいかなるものであり、それが日本国憲法上でどのように具体化され、現実の社会でいかなる機能を果たしているかを確認していく。

また、上記の述べた講義内容を理解することで、学位授与の方針に関する知識、技法、態度の修得をする。

【到達目標】

この授業によって

1. 「憲法」「立憲主義」という概念について理解し説明することができるようになる。
2. 国会、内閣、裁判所の権限や相互関係を憲法の条文に則して説明することができるようになる。
3. 人権にかかわる事例について、判例や学説を踏まえて、自分の見解を述べるようになる。

【授業計画】

- | | | |
|------|---------------|-------|
| 第1回 | 憲法の存在意義 | |
| 第2回 | 憲法と法律の区別 | |
| 第3回 | 国民主権と政治制度 | |
| 第4回 | 法律の執行と行政権 | |
| 第5回 | 裁判所と司法権 | |
| 第6回 | 憲法改正と法律の改正 | |
| 第7回 | 基本的人権の意味 | |
| 第8回 | 精神的自由権(1) | 内心の自由 |
| 第9回 | 精神的自由権(2) | 表現の自由 |
| 第10回 | 経済的自由権 | |
| 第11回 | 人身の自由 | |
| 第12回 | 社会権 | |
| 第13回 | 法の下での平等と幸福追求権 | |
| 第14回 | 平和主義 | |
| 第15回 | 個人の尊厳と立憲主義 | |

【授業時間外の学習】

新聞等で憲法にかかわる諸問題が扱われるときがある。日頃から、新聞などに目を通して、興味があることには主体的に調べてみるとよい。

【成績の評価】

授業中に行う、小テストの合計で成績判定を行う。小テスト終了後、その都度解説資料を配付する。

【使用テキスト】

なし。必要な資料は適宜配布する。

【参考文献】

なし。

科目名： 情報機器演習 【保】
担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「保育学科のめざす保育者像（教育目標）の具体的到達目標として掲げた保育者としての資質能力（「職業使命感と倫理観」「豊かな人間性」「専門的知識と思考力」「保育実践力」）を身に付けた学生に卒業を認め、・・・の「資質能力」をICTを活用して高める情報リテラシーの知識・技能を修得するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word 2013）の機能について学習し、さらに後半（情報と社会）で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、後半部も含めて毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。

【到達目標】

1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Word 2013を対象としてワープロの主要な機能が使える。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。

【授業計画】

第1回	受講ガイダンス、	Windowsの基本操作と日本語入力
第2回	文書作成（1）	基本操作と印刷
第3回	文書作成（2）	表の作成
第4回	文書作成（3）	書式の設定
第5回	文書作成（4）	図・画像などの挿入
第6回	文書作成（5）	アウトラインの設定
第7回	文書作成（6）	Webブラウザとの連携
第8回	文書作成（7）	図の作成と編集
第9回	文書作成（8）	縦書き、PDF変換、パスワード保護
第10回	情報と社会（1）	電子メールによるコミュニケーション
第11回	情報と社会（2）	個人情報保護
第12回	情報と社会（3）	情報倫理・情報モラル
第13回	情報と社会（4）	知的財産権
第14回	情報と社会（5）	ネット犯罪
第15回	情報と社会（6）	未来の情報化社会

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。
第15回目の授業の後に最終課題を課す予定です。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、第15回の授業の後に定期試験相当として最終課題を課します。

【成績の評価】

成績は毎回の課題（80%）と最終課題（20%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013』（実教出版，2013年）ISBN:9784407332537
テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

田中巨，できるシリーズ編集部著『できるWord 2013 Windows 8/7対応』（インプレス，2013年）ISBN:9784844333487
購入義務はありません。

科目名： 情報機器演習 【保】
担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「保育学科のめざす保育者像（教育目標）の具体的到達目標として掲げた保育者としての資質能力（「職業使命感と倫理観」「豊かな人間性」「専門的知識と思考力」「保育実践力」）を身に付けた学生に卒業を認め、・・・の「資質能力」をICTを活用して高める情報リテラシーの知識・技能を修得するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことで、特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel 2013）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint 2013）の機能について学習します。また、前期に学習したワープロ（Microsoft Word 2013）を含めて、ソフトウェア間のデータ関係についても学習します。

【到達目標】

1. Microsoft Excel 2013を対象として表計算ソフトの主要な機能が使える。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft Excel PowerPointを対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能が使える。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。

【授業計画】

第1回	受講ガイダンス、表計算（1）	基本操作と印刷
第2回	表計算（2）	表の作成と基本編集
第3回	表計算（3）	表の書式設定と印刷（詳細）
第4回	表計算（4）	数式（1） 絶対参照と相対参照、基本関数
第5回	表計算（5）	数式（2） 順位取得、条件判断
第6回	表計算（6）	数式（3） 表参照によるデータ取得、端数処理
第7回	表計算（7）	数式（4） エラー回避、文字列操作
第8回	表計算（8）	グラフと図形
第9回	表計算（9）	データベース機能
第10回	プレゼンテーション（1）	基本操作と印刷
第11回	プレゼンテーション（2）	図やオブジェクトの挿入
第12回	プレゼンテーション（3）	図の作成と編集
第13回	プレゼンテーション（4）	SmartArt、グラフ、表の挿入
第14回	プレゼンテーション（5）	特殊効果と自動実行
第15回	プレゼンテーション（6）	ソフトウェア間のデータ関係

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。
第15回目の授業の後に最終課題を課す予定です。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。

【成績の評価】

成績は毎回の課題（80%）と最終課題（20%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2013』（実教出版，2013年） ISBN:9784407332537

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

小館由典，できるシリーズ編集部著『できるExcel 2013 Windows 8/7対応』（インプレス，2013年） ISBN:9784844333494

井上香緒里，できるシリーズ編集部著『できるPowerPoint 2013 Windows 8/7対応』（インプレス，2013年） ISBN:9784844333593

購入義務はありません。

科目名： 英語 【保】

担当教員： 上村 秀樹(UEMURA Hideki)

【授業の紹介】

世界中の国々と文化や人物の交流が活発に行われている現代社会においては、多文化・多言語への対応が強く求められています。保育の現場においても、外国人の保護者や園児と接する機会が増えています。また、外国語活動が導入されつつある保育園も見受けられますが、そのような中、様々な状況下において英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と能力を養うことが大切になっています。本講座ではそのような現状を踏まえて、現在、保育園で行われている「新学期」「あそび」「けんか」「おはなし」「お昼寝」といった様々な状況を想定し、即戦力となる英語学習を進めていきます。併せて、公務員試験のための問題演習にも取り組んでいきます。そして、これらの活動を通して、保育士に必要とされる実践的指導力を総合的に養っていきます。

様々な課題が課されるので、受講生は家庭での予習・復習を中心として、継続的な学習が必要とされます。

なお、毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用するので必ず持参してください。

前期に英語 の両方を履修することは可能ですが、後期に開講される英語 を必ず履修するものとしします。

【到達目標】

1. 保育の現場で外国人の保護者や園児にも対応できる、基礎的な英語力を身に付ける。
2. 園生活の様々な場面で使われる英語に親しむことができる。
3. 園児たちと簡単な英語を使って遊ぶことができる。
4. 保育士に必要とされる実践的指導力を総合的に身に付ける。

【授業計画】

第1回	ガイダンス	Lesson 1	The School Year Begins
第2回	Lesson 1	The School Year Begins	
第3回	Lesson 2	Arrival	
第4回	Lesson 3	Playtime in the Classroom	
第5回	Lesson 3	Playtime in the Classroom	
第6回	Lesson 4	In the Sandbox	
第7回	Lesson 5	In the Playground	
第8回	Lesson 5	In the Playground	
第9回	Lesson 6	Lunchtime	
第10回	Lesson 7	Changing Clothes and Story Time	
第11回	Lesson 7	Changing Clothes and Story Time	
第12回	Lesson 8	Nap time	
第13回	Lesson 9	Blowing Bubbles	
第14回	Lesson 9	Blowing Bubbles	
第15回	English Song		

【授業時間外の学習】

毎回の授業の予習・復習を大切に、英和辞典を使って様々な語彙や表現に慣れ親しみ、繰り返し英文を音読してください。公務員試験問題演習のための予習も必要です。また、英単語テストのための学習、英語の歌の歌唱練習、英文朗読演習なども求められます。

【成績の評価】

英単語テスト(10%)、提出課題(20%)、授業時間外の様々な課題(10%)、授業への取組みの姿勢や意欲(10%)、定期試験(50%)の5点を総合して評価します。授業時間外の様々な課題として、英語による歌唱発表や英文朗読課題などが課されることもあります。小テスト、その他の様々な課題、試験等については、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。なお、30分以上の遅刻は欠席として、また、遅刻3回で欠席1回として扱います。

【使用テキスト】

森田和子著『新・保育の英語』（三修社 2014年）

【参考文献】

なし

科目名： 英語 【保】

担当教員： 上村 秀樹(UEMURA Hideki)

【授業の紹介】

世界中の国々と文化や人物の交流が活発に行われている現代社会においては、多文化・多言語への対応が強く求められています。保育の現場においても、外国人の保護者や園児と接する機会が増えています。また、外国語活動が導入されつつある保育園も見受けられますが、そのような中、様々な状況下において英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と能力を養うことが大切になっています。本講座ではそのような現状を踏まえて、現在、保育園で行われている「運動会」「散歩」「お絵かき」「工作」「降園」といった様々な状況を想定し、即戦力となる英語学習を進めていきます。併せて、公務員試験のための問題演習にも取り組んでいきます。そして、これらの活動を通して、保育士に必要とされる実践的指導力を総合的に養っていきます。

様々な課題が課されるので、受講生は家庭での予習・復習を中心として、継続的な学習が必要とされます。

なお、毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用するので必ず持参してください。

【到達目標】

1. 保育の現場で外国人の保護者や園児にも対応できる、基礎的な英語力を身に付ける。
2. 園生活の様々な場面で使われる英語に親しむことができる。
3. 園児たちと簡単な英語を使って遊ぶことができる。
4. 保育士に必要とされる実践的指導力を総合的に身に付ける。

【授業計画】

- | | | | |
|------|--------------|--------------------------------|--------------|
| 第1回 | ガイダンス | Lesson 10 | A Sick Child |
| 第2回 | Lesson 11 | Preparation for the Sports Day | |
| 第3回 | Lesson 12 | The Sports Day | |
| 第4回 | Lesson 13 | Going for a Walk | |
| 第5回 | Lesson 13 | Going for a Walk | |
| 第6回 | Lesson 14 | Discovering Autumn | |
| 第7回 | Lesson 14 | Discovering Autumn | |
| 第8回 | Lesson 15 | Drawing & Letter Writing | |
| 第9回 | Lesson 15 | Drawing & Letter Writing | |
| 第10回 | Lesson 16 | A Snowy Day | |
| 第11回 | Lesson 16 | A Snowy Day | |
| 第12回 | Lesson 17 | Leaving for Home | |
| 第13回 | Lesson 17 | Leaving for Home | |
| 第14回 | Lesson 18 | School Diary | |
| 第15回 | English Song | | |

【授業時間外の学習】

毎回の授業の予習・復習を大切に、英和辞典を使って様々な語彙や表現に慣れ親しみ、繰り返し英文を音読してください。公務員試験問題演習のための予習も必要です。また、英単語テストのための学習、英語の歌の歌唱練習、英文朗読演習なども求められます。

【成績の評価】

英単語テスト(10%)、提出課題(20%)、授業時間外の様々な課題(10%)、授業への取組みの姿勢や意欲(10%)、定期試験(50%)の5点を総合して評価します。授業時間外の様々な課題として、英語による歌唱発表や英文朗読課題などが課されることもあります。小テスト、その他の様々な課題、試験等については、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。なお、30分以上の遅刻は欠席として、また、遅刻3回で欠席1回として扱います。

【使用テキスト】

森田和子著『新・保育の英語』（三修社 2014年）

【参考文献】

なし

科目名： 英語 【保】

担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

この授業では、今までに身につけてきた基本的な英語力をもとに、社会に出て必要となる実用的な英語力の養成を、リーディング面とリスニング面にわたって行います。テキストやそれ以外に用意される様々な教材の内容やその訓練を通して、将来職業人として求められる基礎的なコミュニケーション力の定着を目指します。

【到達目標】

日本語訳に頼らず平易な英語を直読直解することができる。
自然な速度の、短い英語の要点を聞いて理解することができる。
実用英語技能検定3級(または準2級)に合格することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 1(part 1)
- 第3回 Chapter 1(part 2)
- 第4回 Chapter 2(part 1)
- 第5回 Chapter 2(part 2)
- 第6回 Chapter 3(part 1)
- 第7回 Chapter 3(part 2)
- 第8回 Chapter 4(part 1)
- 第9回 Chapter 4(part 2)
- 第10回 Chapter 5(part 1)
- 第11回 Chapter 5(part 2)
- 第12回 Chapter 6(part 1)
- 第13回 Chapter 6(part 2)
- 第14回 Chapter 7(part 1)
- 第15回 Chapter 7(part 2)

【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、次のことに注意して下さい。
毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること、提出物の準備をすること、次回の授業の予習をすること、などです。

【成績の評価】

毎時間行なう小テスト(20点)の結果、宿題の提出(30点)、定期試験(50点)の結果などを総合的に判断して行う。小テストは直後に解答を解説し、また提出物は評価したものを返却し、解説します。

【使用テキスト】

B. Powle, K.Kendrick他: Tell Me A Story! (南雲堂)

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示する。

科目名： 英語 【保】

担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

後期では、社会に出て必要とされる、幅広いものの見方を伸ばすために、異文化理解用の教材を使います。今までがややもすれば英語圏に偏りがちであった素材・内容とは違い、このテキストではアジア、アフリカ、中東などの国々が取り扱われており、それらの国々の文化を読み解くことによって、学生諸君には今後大切なものとなる、グローバルなものを見方をも養っていただきたいと思います。また後期も続けて、リスニング力向上を目指した訓練を毎時間行い、実用英語技能検定準2級(または2級)を目指していただきます。

【到達目標】

日本語訳に頼らず平易な英語を直読直解することができる。
自然な速度の、短い英語の要点を聞いて理解することができる。
実用英語技能検定準2級(または2級)に合格することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・異文化理解教育
- 第2回 Australia
- 第3回 China
- 第4回 Finland
- 第5回 Germany
- 第6回 Iceland
- 第7回 Indonesia
- 第8回 Italy
- 第9回 Korea
- 第10回 Kuwait
- 第11回 Russia
- 第12回 Spain
- 第13回 Tanzania
- 第14回 Thailand
- 第15回 The United States

【授業時間外の学習】

- ・毎時間初めに行なう小テストのために、前回の授業内容を復習すること。
- ・次回の授業の予習をすること。
- ・宿題となる提出物の準備をすること。

【成績の評価】

毎時間行なう小テスト(20点)の結果、宿題の提出(30点)、定期試験(50点)の結果などを総合的に判断して行う。小テストは直後に解答を解説し、また提出物は評価したものを返却し、解説します。

【使用テキスト】

浅間、山下他: Around the Globe (南雲堂)

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示する。

科目名： 健康スポーツ論

担当教員： 岡田 泰士(OKADA Yasushi)

【授業の紹介】

スポーツを行う本来の目的は、スポーツそのものを楽しむ、つまり、心身の開放にあります。他方、スポーツは身体活動を伴うものであり、例えば、スポーツ活動によって体力の向上や現代社会で問題になっている過栄養と運動不足が原因で生じるメタボリックシンドロームの予防策として活用することもできます。本授業ではスポーツ生理学の視点からスポーツ活動が体力の向上や健康の維持増進に及ぼす効果と合理的な運動実施法（運動処方）について学習し、生涯にわたり自律的に健康管理ができる実践力を身に付けます。

【到達目標】

- 1．スポーツ生理学によりスポーツ活動が身体機能に及ぼす効果について科学的理解を深めることをめざします。
- 2．修得したスポーツ生理学の知識を活かし自己の体力や健康の維持増進のための運動実践が自律的に実行できるようにします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 スポーツと健康
- 第3回 スポーツと体力
- 第4回 エアロビクス運動とは
- 第5回 エアロビクス運動の方法
- 第6回 メタボリックシンドロームとは
- 第7回 メタボリックシンドロームの予防法
- 第8回 肥満と運動療法
- 第9回 運動と三大栄養素
- 第10回 運動とビタミン
- 第11回 運動とミネラル
- 第12回 運動と疲労
- 第13回 運動と睡眠
- 第14回 運動と加齢
- 第15回 まとめ（健康づくりに関する質疑応答）

【授業時間外の学習】

事前に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、スポーツ生理学の知識を活用し栄養や運動処方についてのレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい。

【成績の評価】

成績の評価は学期末試験（60%）、レポート（30%）、学習態度（10%）によって行い、総計60%以上を合格とします。なお、レポートについては講評や添削を行い返却（フィードバック）します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

中西光雄著『運動生理学入門』（技術書院、1993年）
上野俊文監修『ウォーキングの基本』（JTBパブリッシング、2007年）

科目名： スポーツ実習【保】

担当教員： 池内 裕二(IKEUCHI Yuji)

【授業の紹介】

健康で毎日を過ごすためには運動、栄養、休養のバランスが大切である。学校体育（スポーツ）として、おこなわれてきた、テニス、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球等を、仲間と協力して、また、個人として楽しむ為の授業である。。また、インディアカ、ソフトバレー、キンボールなど生涯体育スポーツにつながるニュースポーツやあそびを行うことで、将来にわたって、運動を日常生活に取り入れることを構想できるようにするための授業である。

【到達目標】

スポーツに関する知識を深めるとともに技能を高め、スポーツの楽しさや喜びを深く味わうことができる。

自己の状況に応じて体力の向上を図ることができる。

公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって健康の維持増進のために豊かなスポーツライフを自律的に構想できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 テニス・ソフトボール
- 第3回 テニス・ソフトボール
- 第4回 テニス・ソフトボール
- 第5回 バレーボール・バドミントン・卓球
- 第6回 バレーボール・バドミントン・卓球
- 第7回 バレーボール・バドミントン・卓球
- 第8回 バレーボール・バドミントン・卓球
- 第9回 バスケットボール・ニュースポーツ
- 第10回 バスケットボール・ニュースポーツ
- 第11回 バスケットボール・ニュースポーツ
- 第12回 昔あそび
- 第13回 フットサル・ニュースポーツ
- 第14回 フットサル・ニュースポーツ
- 第15回 フットサル・ニュースポーツ

【授業時間外の学習】

スポーツ中継や新聞等を見て、興味関心を持ち、ルールを覚える。
地域で開催されるスポーツレクの大会等に積極的に参加してみる。

【成績の評価】

取り組む態度20%、 技能50%、 レポート30%の総合評価

単元ごとにレポートを提出し、教員がコメントをつけて返却することでフィードバックする。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

なし

科目名： 音楽

担当教員： 柴田 玲子(SHIBATA Reiko), 出木浦 孝(DEKIURA Takashi), 西村 京子(NISHIMURA Kyoko), 渡辺 磨奈(WATANABE Mana), 徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya)

【授業の紹介】

少人数クラス、個人レッスンの形態で行う授業です。学生相互に学びあう場ともなるこの授業では、音楽を通して保育者の資質能力を様々な面から身に付け、学科のめざす保育者像をめざします。

子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育園、幼稚園において音楽は生活の一部として取り入れられています。保育士、幼稚園教諭を目指す者にとって、音楽的技能の習得は不可欠です。保育園、幼稚園で日常的に用いられている音楽の演奏や季節の歌などの弾き歌いに重点を置いてレパートリーを増やすとともに、さまざまな教材を用いて音楽の基本的技術を習得し、感性豊かにすることで保育実践力を高めます。

【到達目標】

1. 音ならびに音楽作品が子どもの感性や情操に与える意義の理解、また音楽的調和が社会的調和と相通じることの理解を通して、使命感や倫理観を高めることができる。
2. 音楽作品の鑑賞・演奏トレーニング等の音楽活動に対する継続的な取り組みを通して、人間性を育むことができる。
3. 音楽ならびに保育における子どもの音楽活動に関する専門的知識や判断力を習得することができる。
4. 多様な音楽表現技能の向上、ならびに子どもに適した望ましい保育実践を構想することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション 音楽の基礎知識確認のためのワークシート

各自のピアノ技術能力を調査し最初に取り組み曲を決定する

これ以降、個々に弾き歌いの曲に取り組みと共に、以下のテーマで歌のレパートリーを増やす

第2回 春の歌を歌おう

第3回 動物の歌を歌おう

「ぞうさん」「こぎつね」他7曲

第4回 動物の歌を歌おう

「あめふりくまのこ」「いぬのおまわりさん」他7曲

第5回 生活の歌を歌おう

「おべんとう」「おかえりのうた」他7曲

第6回 生活の歌を歌おう

「思い出のアルバム」「一年生になったら」他7曲

第7回 子どもの好きな歌

「アイ・アイ」「かもつれっしゃ」他10曲

第8回 子どもの好きな歌

「さんぼ」「小さな世界」他10曲

第9回 子どもの好きな歌

「手をたたきましょう」「ミッキーマウスマーチ」他10曲

第10回 夏の歌を歌おう

第11回 自分が好きな歌を歌おう

第12回 弾き歌いを相互に発表する(人前で歌う)練習

相手に声が届くように歌おう

第13回 弾き歌いを相互に発表する(人前で歌う)練習

ピアノの音をよく聴いて歌おう

第14回 弾き歌いを相互に発表する(人前で歌う)練習

表現豊かに歌おう

第15回 発表会による全体の振り返りおよびまとめ

期末試験

【授業時間外の学習】

次の授業までの一週間に与えられた曲を自分で練習して、弾けるようになったものを教員の前で演奏します。短い時間でも毎日鍵盤に触れる習慣をつけましょう。また、テキスト以外にも様々な楽譜が出版されており、新しい曲も次々と出てくるので、積極的にそういう曲も練習してみてください。

【成績の評価】

実技試験90%、日常の取り組み10%。課題曲すべてに加えて、担当教員と相談の上、自由曲1曲を選択し、授業担当教員全員の前で演奏する実技試験を行います。評価の観点としては、ピアノの技術だけを重視するのではなく、(保育室にいる子どもたちに届くような)明るい声で歌詞の場面が表現できているかが大きな要素となります。また、発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

小川宜子他編『子どものうた村 保育の木』(ドレミ楽譜出版社、2008年)

上記のテキストを基本に、子どもの歌、アニメソングなど保育の現場で用いられる楽曲を個々の技術に応じたアレンジで使用します。また、教員の指示により、ピアノの基本的技術習得のための教材も用いることがあります。(電子ピアノで使用するヘッドフォンを最初の授業前に販売します。)

【参考文献】

子どもの歌の様々な楽譜

科目名： 音楽

担当教員： 柴田 玲子(SHIBATA Reiko), 出木浦 孝(DEKIURA Takashi), 西村 京子(NISHIMURA Kyoko), 渡辺 磨奈(WATANABE Mana), 徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya)

【授業の紹介】

音楽 に準じ、学科の目ざす保育者像を見据えて、子どもに寄り添った保育実践をめざします。レパートリーを増やすとともに、ピアノの演奏技術のさらなる向上をめざします。音を単にたどるだけでなく、一歩踏み込んで音楽表現の方法に関しても考え、その歌に合った弾き歌いになることが、子どもの音楽環境を豊かにします。また、他の学生の演奏を聴いたり一緒に歌ったりすること、そして、模擬的な歌唱指導に取り組むことで、各自の保育実践力を高めることも出来る授業です。

【到達目標】

音楽 で挙げた目標にさらに近づくことを目指して取り組みましょう。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション - の問題点を振り返り、 - で目ざすことを各自が明らかにする
担当教員と相談の上各自が取り組む曲を決定し、これ以後毎回、課題を練習して弾き歌いのチェックを受ける
- 第2回 秋の歌を歌おう
- 第3回 季節感のある歌
- 第4回 伴奏の形に注目しよう
- 第5回 人前で弾き歌いをする練習
- 第6回 夏休みの成果を振り返る中間発表会
- 第7回 実習に向けて 子ども相手の弾き歌い
- 第8回 実習に向けて 子どもの生活、季節
- 第9回 冬の歌を歌おう
- 第10回 クリスマスの歌を歌おう コードネームの基礎
- 第11回 様々な演奏を生で聴くことによって自らの表現の幅を広げる
- 第12回 聴いた音楽を振り返り、自分の表現につなげる
- 第13回 人前で表情豊かに歌う練習
- 第14回 発表会 保育実習に向けて、歌唱指導の可能性
- 第15回 全体の振り返りとまとめ、弾き歌い以外の音楽的関わりについて
実技試験

【授業時間外の学習】

音楽 と同時に音楽 の課題曲も発表してあります。自由曲と合わせて夏休み中に自発的・積極的に練習しておきましょう。授業開始後、順次、教員の前で演奏します。夏休みの成果をチェックする機会を設け、一定の成果が認められた場合には弾き歌いと併せてピアノ独奏曲に取り組みます。短い時間でも毎日鍵盤に触れる習慣をつけましょう。

【成績の評価】

実技試験90%、日常の取り組み10%。音楽 に準じ、実技試験による評価です。1月に課題曲・自由曲の弾き歌い試験を行います。日常的な努力を評価するという意味で、夏休み中に音楽 の課題曲すべてと自由曲1曲に取り組んだ人は10月末頃のチェック(試験形式)を受けることができます。合格すれば、それ以後、より高度な弾き歌いに加えてピアノ独奏曲に取り組み、1月試験で独奏曲を演奏します。10月に合格し、独奏曲も評価に値する演奏であった場合、優以上の評価を与えます。

【使用テキスト】

音楽 に準じます。

【参考文献】

音楽 に準じます。

科目名： 図画工作

担当教員： 岡谷 崇史(OKATANI Takafumi)

【授業の紹介】

本科目は、保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目であり、卒業必修科目でもある。

- ・ 保育士としての資質能力の一つである子どもの造形表現に関わる専門的知識と思考力・技能を習得する。
- ・ 特に描写力や観察力を身につけることを主としている。

【到達目標】

- ・ 造形表現の基礎的な知識と技能を身につける。特に、立体感覚や描写力を身につける。
- ・ 素材を活かした表現や、発展させる思考力を身につける。
- ・ 造形表現の準備やプロセスを理解し、計画することができる。

【授業計画】

- 第1回 立体物からのイメージ表現 ケント紙を使って立体物制作
- 第2回 立体物制作
- 第3回 立体物制作
- 第4回 立体物制作
- 第5回 立体物にイメージ表現 カラードフォルムやトータルカラーなどで表現
- 第6回 カラードフォルムやトータルカラーなどで表現 講評
- 第7回 学外授業（高松市美術館視察と鑑賞）
- 第8回 アクリル絵具による観察画 絵具の特性や構図について 水張り
- 第9回 デッサン
- 第10回 下描き
- 第11回 着彩
- 第12回 着彩
- 第13回 着彩
- 第14回 着彩
- 第15回 着彩 講評

【授業時間外の学習】

美術館や博物館などに出かけ美術作品を鑑賞したり、画集を見たりして様々な表現があることを知る。

【成績の評価】

課題作品及びその提出状況を70%、学外授業レポート10%、受講態度などを20%で評価する。作品が完成するたびに講評会を設け、作品お全体的な傾向や作品個々の良い点をあげ、反省と次回の制作に役立てる。

【使用テキスト】

辻泰秀 編著「幼児造形の研究」保育内容「造形表現」（（株）萌文書林 2016年） 2,160円

【参考文献】

随時紹介する。

科目名： 図画工作

担当教員： 岡谷 崇史(OKATANI Takafumi)

【授業の紹介】

本科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目、保育士資格の選択科目であり、卒業必修科目でもある。

保育士としての資質能力の一つである子どもの造形表現に関わる専門的知識と思考力・技能を習得する。特に観察力や立体感覚を身につけることを主としている。

【到達目標】

- ・造形表現の基礎的な知識と技能を身につける。特に観察力や立体感覚を身につける。
- ・素材を活かした表現や、発展させる思考力を身につける。
- ・図画工作の準備やプロセスを理解し、計画することができる。

【授業計画】

第1回	石紛粘土を使ってカブトムシの制作	粘土の素材の特性と扱い方	芯材制作
第2回	カブトムシ制作		
第3回	カブトムシ制作		
第4回	カブトムシ制作		
第5回	カブトムシ制作		
第6回	カブトムシ制作		
第7回	カブトムシ制作		
第8回	学外授業（香川県立ミュージアム視察と鑑賞）		
第9回	しかけ絵本制作	しかけ絵本の基礎	
第10回	しかけ絵本の基礎		
第11回	構想を練る 試作		
第12回	しかけ絵本制作		
第13回	しかけ絵本制作		
第14回	しかけ絵本制作		
第15回	しかけ絵本制作	講評	

【授業時間外の学習】

夏休みにカブトムシを観察して、スケッチをする。また和洋問わずしかけ絵本を見て様々な表現やしかけがあることを知る。

【成績の評価】

課題作品及びその提出状況を70%、学外授業レポート10%、受講態度などを20%で評価する。作品が完成するたびに講評会を設け、作品の全体的な傾向や作品個々の良い点をあげ、反省と次回の制作に役立てる。

【使用テキスト】

辻 泰秀 編著 『幼児造形の研究』保育内容「造形表現」（（株）萌文書林、2016年） 2,160円

【参考文献】

菊地 清 著者 『ポップアップカード入門』（遊友出版（株）、2011年） 1,620円

科目名： 体育

担当教員： 池内 裕二(IKEUCHI Yuji)

【授業の紹介】

子どもの発育・発達に体育が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育園、幼稚園において体育(運動遊び)は生活の一部として取り入れられている。保育士、幼稚園教諭を目指す者にとって、体育的技術の習得は不可欠である。保育園、幼稚園で日常的に取り組んでいる運動遊び・伝承遊びのレパートリ-を増やすし、感性豊かにすることで、保育実践力を高める。

【到達目標】

次の4つの目標で、みなさんが保育学科の目指す保育者像に近づくことを目指します。

1. 運動遊びが子どもの身体発達ならびに感性や情操に与える意義の理解を通して使命感や倫理観をたかめることが出来る。
2. 運動遊びのルールを順守し、仲間と協力し、真摯な運動遊びへの取り組みを通して人間性を育むことが出来る。
3. 運動機能及び競技種目、ならびに保育における子どもの運動活動(とりわけ安全性)に関する専門的知識や判断力を習得することが出来る。
4. 多様な運動技能(筋力・身体感覚等)の向上、ならびに子どもに適した望ましい保育実践を構想することが出来る。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	
第2回	運動遊びの実際と保育者の援助	鬼ごっこ
第3回	運動遊びの実際と保育者の援助	伝承あそび 屋外
第4回	運動遊びの実際と保育者の援助	伝承あそび 屋内
第5回	運動遊びの実際と保育者の援助	かけっこあそび
第6回	運動遊びの実際と保育者の援助	リレーあそび
第7回	運動遊びの実際と保育者の援助	マットあそび
第8回	運動遊びの実際と保育者の援助	とび箱あそび
第9回	運動遊びの実際と保育者の援助	ボールあそび 屋外
第10回	運動遊びの実際と保育者の援助	ボールあそび 屋内
第11回	運動遊びの実際と保育者の援助	まねっこあそび
第12回	運動遊びの実際と保育者の援助	手あそび・うたあそび
第13回	運動遊びの実際と保育者の援助	表現あそび 幼児体操
第14回	運動遊びの実際と保育者の援助	表現あそび 創作体操
第15回	運動遊びの実際と保育者の援助	水あそび

【授業時間外の学習】

身近にいる子どもを観察し、どんな運動遊びを展開しているか、発育・発達に関連づけて見ていく。

【成績の評価】

取り組む態度30%、 技能40%、 レポート30%の総合評価
単元ごとにレポートを提出し、教員がコメントをつけて返却することでフィードバックする。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

学校体育研究同志会編集『種目別・年齢別指導 乳幼児の体育あそび』(草土文化、1999年)
黒井信隆『体育遊び・ゲームワンダーランド』(株式会社いかだ社、2000年)
石井美晴ほか『保育の中の運動あそび』(萌文書林、2000年)
保育所保育指針
幼稚園教育要領

科目名： 体育

担当教員： 池内 裕二(IKEUCHI Yuji)

【授業の紹介】

子どもの発育・発達に体育が果たす役割は非常に大きくまた重要で、保育園、幼稚園において体育(運動遊び)は生活の一部として取り入れられている。保育士、幼稚園教諭を目指す者にとって、体育的技能の習得は不可欠である。保育園、幼稚園で日常的に取り組んでいる運動遊び・伝承遊びのレパートリ-を増やすし、感性豊かにすることで、保育実践力を高める。

【到達目標】

次の4つの目標で、みなさんが保育学科の目指す保育者像に近づくことを目指します。

1. 運動遊びが子どもの身体発達ならびに感性や情操に与える意義の理解を通して使命感や倫理観をたかめることができる。
2. 運動遊びのルールを順守し、仲間と協力し、真摯な運動遊びへの取り組みを通して人間性を育むことができる。
3. 運動機能及び競技種目、ならびに保育における子どもの運動活動(とりわけ安全性)に関する専門的知識や判断力を習得することができる。
4. 多様な運動技能(筋力・身体感覚等)の向上、ならびに子どもに適した望ましい保育実践を構想することができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	
第2回	運動遊びの実際と保育者の援助	鬼ごっこ
第3回	運動遊びの実際と保育者の援助	屋内伝承あそび
第4回	運動遊びの実際と保育者の援助	屋外伝承あそび
第5回	運動遊びの実際と保育者の援助	かけっこあそび
第6回	運動遊びの実際と保育者の援助	リレーあそび
第7回	運動遊びの実際と保育者の援助	竹馬
第8回	運動遊びの実際と保育者の援助	一輪車
第9回	運動遊びの実際と保育者の援助	なげっこボールあそび
第10回	運動遊びの実際と保育者の援助	けりっこボールあそび
第11回	運動遊びの実際と保育者の援助	集団ボールあそび
第12回	運動遊びの実際と保育者の援助	ナワトビあそび
第13回	運動遊びの実際と保育者の援助	フープあそび
第14回	運動遊びの実際と保育者の援助	氷上あそび
第15回	運動遊びの実際と保育者の援助	スケートあそび

【授業時間外の学習】

観察参加や身近にいる子どもたちを観察し、子どもがどんな運動遊びができているかをみていく。

【成績の評価】

取り組む態度30%、 技能50%、 レポート20%の総合評価

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

学校体育研究同志会編集『種目別・年齢別指導 乳幼児の体育あそび』(草土文化、1999年)
黒井信隆『体育遊び・ゲームワンダーランド』(株式会社いかだ社、2000年)
石井美晴ほか『保育の中の運動あそび』(萌文書林、2000年)
保育所保育指針
幼稚園教育要領

科目名： 子ども文化

担当教員： 山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo)

【授業の紹介】

子ども文化は、大きな目で見れば子どもを取り巻く生活文化の広がりであり、生活の全体である。子どもにかかわる「児童文化」について整理し、知識として蓄え、さらに子どもと実際に行動できるようになっていただきたい。そのための児童文化の基本を学び、保育者としての専門的知識と保育実践力を身に付けていただきたい。

保育は保育者の文化的な知識と実践力が求められる。この授業では例えば、地域の子育て中の親子や保育所・幼稚園の子どもたちが利用する「さぬきこどものくに」において子どもの遊びや遊びの環境等を実際に観察したり遊んだりして教材や遊びの種類を知りフィールドワークすることなども行う。それを通して保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育・保育要領で言われる保育者の専門性、子どもにとって最もふさわしい環境とは何かを意識して学びたい。

【到達目標】

1. 多様な文化財が子どもの感性や情操に与える意義の理解を通して、確かな使命感や倫理観をめざす。
2. 文化財の鑑賞ならびに文化活動への継続的な取り組みによって人間性を育むことができる。
3. 文化財ならびに保育における子どもが文化に触れる保育活動に関する専門的基礎知識を持つことができる。
4. 多様な文化財技能（読み聞かせ・手あそび等）の向上、ならびに子どもに適した望ましい保育実践ができる。

【授業計画】

第1回	オリエンテーション	子ども文化とは
第2回	子どもにとっての遊び	
第3回	子どもの遊びの変化	
第4回	保育における児童文化	さぬきこどものくにで学ぶ
第5回	児童文化財の保育への展開	さぬきこどものくにで学ぶ
第6回	児童文化財の保育への展開	見学の話し合いと発表
第7回	児童文化財の保育への展開	絵本の読み語り
第8回	児童文化財の保育への展開	絵本リストを作ろう
第9回	児童文化財の保育への展開	紙芝居の演じ方と紙芝居
第10回	児童文化財の保育への展開	人形あそび・劇遊び
第11回	玩具・遊具	伝承遊び、子どもと行事
第12回	伝承遊びと行事	
第13回	あやとり・絵描き歌・おりがみ	
第14回	子どもに伝えたい文化に関する発表と討議	
第15回	子どもの文化の現状と展望	（授業のまとめと質疑応答）

期末試験

【授業時間外の学習】

図書館・美術館・さぬきこどものくに、で子どもの文化を探そう。

【成績の評価】

授業中の態度10%、提出物10%、発表10%、学習シートの記述内容10%、期末試験60%を評価し、単位認定をします。

詳しいことは第1回目の授業で説明します。履修期末試験の結果は、オフィスアワーの時間に解説します。

【使用テキスト】

皆川恵美子 武田京子 編編 『新版 児童文化』（ななみ書房、2016年）

【参考文献】

松本峰雄編著 『保育における子ども文化』（わかば社、2014年）

科目名： 教師論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

あなた方が保育学科を受験したときに、面接で「どのような先生になりたいですか？」と質問された人はたくさんいますね。聞かれなくても、面接対策で自分なりの答えを用意したはずですが。その時に抱いていた先生のイメージは、今と同じでしょうか？それとも大きく変わったでしょうか？

本学で保育者になるために勉強してきたみなさんが、「子どもに対して責任をもてる保育者とはどうあるべきなのか」という間に自分なりの答えができるとともに、保育者としての自分の成長課題を発見できる授業を目指したいと思います。

この科目は、学修を通じて、学科のポリシーに掲げる、保育士及び幼稚園教諭をはじめ、広く子育て支援に資する人材に重要となる職業使命感と倫理観の涵養を目指します。

【到達目標】

次の4つの目標で、みなさんが学科のめざす保育者像に近づくことをめざします

- ・保育者の使命感・倫理観ならびに保育職の専門性を体系的に理解することによって使命感や倫理観を高めることができる。
- ・専門職保育者の在り方に関する継続的学習を通して人間性を育むことができる。
- ・保育者像ならびに保育職に関する専門的基礎知識や判断力を習得することができる。
- ・保育者として責任ある保育実践を成し得るための基礎を培うことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保育者の存在と姿
- 第3回 保育学生の在り方を見直そう！
- 第4回 保育研究の意義
- 第5回 子どもが育つ環境の理解
- 第6回 子どもの「発達」を考える
- 第7回 遊びの中での保育者の役割
- 第8回 遊びを育む環境構成
- 第9回 少子化問題と保育者
- 第10回 子育て支援
- 第11回 保護者との連携
- 第12回 地域における子育て支援
- 第13回 組織人としての保育者の在り方
- 第14回 伝統的に求められる保育者の専門性
- 第15回 これからの時代に求められる保育者の専門性
期末試験

【授業時間外の学習】

各授業の最後に復習と次回の予習のポイントを指示しますので、自己学習時に確認をしておいて下さい。また、自己学習の成果をレポートとして提出することを求めます。

【成績の評価】

授業終了時のミニレポート(約3割)、レポート(約2割)及び試験(約5割)の合計点によって成績を評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学びを点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、私の学内HPを通じて学生に以後の学びへの示唆をフィードバックします。

【使用テキスト】

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館

【参考文献】

授業時に、その都度紹介します。

科目名： 教育学原論

担当教員： 相馬 宗胤(SOMA Munetane)

【授業の紹介】

本科目は、「教育」について考える授業です。「教育」という概念や「教育」をめぐる思想について取り上げます。これらの事項の学習を通して、教職に必要な基礎知識を習得すると同時に、皆さんが当たり前だと思っている「教育」のイメージを相対化し、「教育」について考えていけるような作法を獲得することを目指します。

【到達目標】

1. 教育・保育の原理についての学習を通じて、教師・保育士として持つべき使命感・倫理観について考えることができ、また、実際に使命感・倫理観を持って行動できるようになる。(職業使命感と倫理観)
2. 教育・保育の原理について、自分自身が当たり前のものである教育や保育のイメージを振り返ることができるようになり、多角的に考えることができるようになる。(豊かな人間性)
3. 教育・保育に関する専門的知識を習得する。また、より良い教育・保育を考えるための「考え方」を身につける。(専門的知識と思考力)
4. 豊かな保育実践を展開するための基礎として、保育を支える原理や基礎理論を理解し、より良い実践を考えていくことができる。(保育実践力)

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション、教育の原理(1)教育の考え方 |
| 第2回 | 教育の原理(2)教育の意義と目的 |
| 第3回 | 教育の原理(3)発達と教育 |
| 第4回 | 教育の原理(4)教師 |
| 第5回 | 様々な教育(1)学校教育 |
| 第6回 | 様々な教育(2)就学前教育 |
| 第7回 | 様々な教育(3)家庭教育 |
| 第8回 | 様々な教育(4)社会教育 |
| 第9回 | 教育の思想(1)コメニウス |
| 第10回 | 教育の思想(2)ルソー |
| 第11回 | 教育の思想(3)ペスタロッチーとフレーベル |
| 第12回 | 教育の思想(4)ヘルバルト |
| 第13回 | 教育の思想(5)デューイ |
| 第14回 | 教育の思想(6)現代の教育思想 |
| 第15回 | これまでの授業のまとめ |

【授業時間外の学習】

予習として、次回授業する内容の箇所を一読しておくこと。授業は、基本的に、一読したことを前提に進める。また、毎時授業の冒頭で、前回授業内容に関する小テストを行うため、復習もすること。

【成績の評価】

小テストの成績(25%)、レポート(25%)、期末試験(50%)

【使用テキスト】

汐見稔幸・伊藤毅・高田文子・東宏行・増田修治編『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。

【参考文献】

授業時に適宜、提示します。

科目名： 教育心理学

担当教員： 中村 多見(NAKAMURA Tami)

【授業の紹介】

教育心理学とは、「子どもたちが生き生きと主体的に学ぶことを支える」ための学問です。特に、乳幼児期の子どもたちは遊びのなかで、できることを少しずつ増やして、自らの自由や可能性を大いに広げていきます。そんな子どもたちの主体性をもとに、豊かな知性や人間性を育むための専門的知識や保育実践力が保育者には必要です。

この授業では、子どもの知的発達と学びのしくみを理解することはもちろん、それを阻む地域福祉問題の現状についても理解を深め、その上で「子どもたちが生き生きと主体的に学ぶことを支える」保育者を目指して学びます。

【到達目標】

次の4つの目標で、みなさんが学科の目指す保育者像に近づくことを目指します。

- ・子どもの知的発達を支える保育者の使命感や倫理観を高めることができる
- ・主として人間の知的発達に関する継続的学習を通して保育者らしい人間性を育むことができる
- ・主として人間の知的発達、ならびに知的発達を支える保育に関する専門的知識や思考力を身につけることができる
- ・知的発達を支える保育実践の基礎を培うことができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（子どもの発達と教育）
 - 第2回 保育者養成のための教育心理学 - 地域福祉問題の解決に取り組む専門職者による話題提供
 - 第3回 子どもの発達と教育 - 地域福祉問題の解決に取り組む保育について考えるグループワーク
 - 第4回 知的能力の発達
 - 第5回 行動主義からみた学習のしくみと保育的かかわり
 - 第6回 認知主義からみた学習のしくみと保育的かかわり
 - 第7回 記憶の成り立ち
 - 第8回 学びの動機づけ
 - 第9回 遊びの発達
 - 第10回 保育における評価
 - 第11回 発達理解の方法
 - 第12回 発達障害のある子どもの保育 - 発達障害の理解
 - 第13回 発達障害のある子どもの保育 - 障害児保育
 - 第14回 発達障害のある子どもの保育 - 保護者支援
 - 第15回 就学に向けて（幼・保・小連携）
- 期末試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業プリントに板書をまとめ、すべて保管しましょう。
また、必要に応じて復習・予習課題に取り組みましょう。

【成績の評価】

成績は授業への出席時に提出される学習シートの内容（10%）と期末試験の結果（90%）で評価します。
学習シートは毎回点検し、コメント等を寄せて返却することでフィードバックします。

【使用テキスト】

本郷一夫『シードブック 保育の心理学 ・ 第2版』（建帛社、2015年）

【参考文献】

- ・伊藤健次編『新時代の保育双書 保育に生かす教育心理学』（みらい、2008年）
- ・本郷一夫・八木成和編著『シードブック 教育心理学』（建帛社、2011年）
- ・服部 環・外山美樹編『ライブラリスタンダード心理学6 スタンダード教育心理学』（サイエンス社、2014年）
- ・加藤義信編『資料でわかる 認知心理学入門』（ひとなる書房、2009年）

科目名： 教育制度論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

「教育制度」という言葉は、やや「お堅い」言葉に聞こえるかもしれませんが。また、制度や法規に関連することがらは難しいのでできれば避けて通りたい…と思う人も少なくないと思います。

しかし、学校は、今日、私たちの暮らしを支える制度の1つとして機能しています。それ故に、学校には、その目的や制度のあり方、保育内容について様々な規定が設けられるとともに、多くの税金やその他の財貨が投入され、そこに教員をはじめとたくさんの人々が関わって、子どもたちの生活を支えているのです。それゆえに、教員に対する社会的使命や期待には大きなものがあると同時に厳しいものがあります。

本講義は、そのような点を考慮して、責任を果たせる教員としての意識づくりを図りたいと思います。また、採用試験も考慮して、法制面からのアプローチによって教育制度の理解を目指します。できるだけ、丁寧にわかりやすく講義することに努めますので、肩肘張らず受講して下さい。

なお、この授業では、保育学科がポリシーに示す保育者が有するべき資質能力のうち、特に「職業使命感と倫理観」の涵養に力を入れたいと思います。

【到達目標】

教育現場での1つ1つの行為が、社会的な制度の枠の中で運営されていることが理解できる。
制度設立の目的を踏まえて、自らの教育実践取り組む姿勢を形成することができる。
制度構築の理念を理解して、教育制度に関する問題に自分なりの意見表明ができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション&教育制度を学ぶことの意味
- 第2回 教育法規の理論と体系
- 第3回 我が国の教育行政制度
- 第4回 我が国の教育行政の組織と機能
- 第5回 学校制度の歴史的発展過程（外国編）
- 第6回 学校制度の歴史的発展過程（日本編）
- 第7回 学校教育の法制
- 第8回 学校の制度と経営
- 第9回 教育課程の制度
- 第10回 教育の権利と義務
- 第11回 教職員の権利と義務
- 第12回 教職員の身分保障法制と研修
- 第13回 教育財政の法制
- 第14回 児童・生徒の管理
- 第15回 特別支援教育
期末試験

【授業時間外の学習】

各授業の最後に復習と次回の予習のポイントを指示しますので、自己学習時に確認をしておいて下さい。また、自己学習の成果をレポートとして提出することを求めます。

【成績の評価】

出席カードへのコメント(約3割)、レポート(約2割)及び試験(約5割)の合計点によって成績を評価し、単位を認定します。

試験の結果は、学内のHPを通じてフィードバックします。

【使用テキスト】

河野和清編著『現代教育の制度と行政【改訂版】』福村出版、2017年。

【参考文献】

授業時に、その都度紹介します。

科目名： 保育課程論 (H29年度休講のため昨年度のシラバス)

担当教員： 井上 範子(INOUE Noriko)

【授業の紹介】

幼稚園や保育所の先生は毎日子どもの命を預かって生活しています。子どもたちと楽しそうに遊び面倒を見ている背景では、子どもの安心・安全に配慮し成長を援助していくという仕事をしています。さらに、近年は保護者への支援も重要性を増しています。そうした園生活の全体構造をどのように創造して実践、評価していくのかという基本的なことを具体的に理解する科目です。保育士資格には必修科目です。1年前期の学びには厳しいものがありますが、後期の実習に備えて保育の全貌をつかんでおきましょう。

【到達目標】

- 「保育学科のめざす保育者像」に基づき、次の4つを到達目標と設定します。
- ・保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解することにより使命感や倫理観を高める
 - ・保育・教育課程の編成と指導計画作成についての個々の課題への継続的学習を通して豊かな人間性を育む
 - ・保育・教育課程の編成、計画、実践、省察・評価、改善に関する専門的知識や判断力を習得する
 - ・保育・教育課程の基礎理論の習得により豊かな保育を創出する実践力の基盤を培う

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業の概要・進め方と取り組み方について説明する）
- 第2回 いろいろな保育施設があることを知る
- 第3回 幼稚園・保育所の歴史的変遷の概要を理解する
- 第4回 保育の基本とは何かを知る（法的規制や教育要領・保育指針と関連させて概観する）
- 第5回 教育課程・保育課程の基礎的概念を理解する
- 第6回 保育における評価の意義と計画から改善への循環を理解する
- 第7回 子どもの発達特性や発達過程を指導計画に生かす方法を理解する
- 第8回 保育所の保育課程、幼稚園の教育課程を理解する
- 第9回 保育所の保育課程を理解する（以下幼稚園と関連づけながら見ていく）
- 第10回 保育所の指導計画を理解する（以下同様）
- 第11回 保育課程の編成と展開について理解する
- 第12回 指導計画の作成と展開について理解する
- 第13回 保育所における保育の評価を理解する
- 第14回 保育士および保育所の自己評価の要領について理解する
- 第15回 指導計画作成上特に留意すべき事項等について確認をする

【授業時間外の学習】

授業時に示されたテキストの次時予告部分の精読と本時の振り返りにより自分の理解度を確認する予習や復習を必ずして下さい。この努力がないと単位の修得が困難となります。
他の授業科目と関連させながら、理解の深化に努め、目指す保育者像に近づけるよう感性を磨き、使命感や倫理観、判断力や実践力を養うよう常に心がけてください。

【成績の評価】

- ・詳細は第1回目に説明します。（期末試験 80%、毎授業時に提出するミニレポート20%で評価します）
- ・授業時間内の立ち居振る舞い、保育者としての品格を疑うような態度に注意。（授業時に指導します）

【使用テキスト】

- ・加藤敏子・岡田耕一『保育課程論』（萌文書林）2013年
- ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド社 2014年

【参考文献】

『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説書』その他、授業時に提示します。

科目名： 保育内容 - 表現

担当教員： 岡谷 崇史(OKATANI Takafumi)

【授業の紹介】

保育士としての資質能力の一つである子どもの造形表現に関わる専門的知識と思考力・技能を習得する。絵具、クレパス、紙などを使ってモダンテクニックなど主に平面的な作品制作をする。また、子どもの発達段階に応じた指導法も学習する。

【到達目標】

- ・造形表現の基礎的な知識と技能を身につける。
- ・子どもの作品を受け入れ、理解しようとすることができる。
- ・素材を活かした表現や、発展させる思考力を身につける。
- ・造形表現の準備やプロセスを理解し、計画することができる。

【授業計画】

- 第1回 子どもの発達段階と表現、折り紙の基礎、モダンテクニックとは
- 第2回 モダンテクニック（スクラッチ、バチック）の制作
- 第3回 モダンテクニック（ステンシル、スタンプ）の制作
- 第4回 モダンテクニック（マーブリング、にじみ、デカルコマニー）の制作
- 第5回 モダンテクニックでコラージュ制作
- 第6回 モダンテクニックでコラージュ制作
- 第7回 学外授業（高松市美術館視察と鑑賞）
- 第8回 折り紙
- 第9回 折り紙
- 第10回 切れ目を活かして
- 第11回 切ることからの発展
- 第12回 シルエット絵本の制作
- 第13回 シルエット絵本の制作
- 第14回 シルエット絵本の制作
- 第15回 折り紙演習

【授業時間外の学習】

テキスト「四季のたのしいおりがみ事典」から、指定された折り紙（50点）を解説を見ずに作ることができるようにする。

【成績の評価】

課題作品及びその提出状況を70%、学外授業レポート10%、受講態度などを20%で評価する。作品が完成するたびに講評会を設け、作品の全体的な傾向や作品個々の良い点をあげ、反省と次回の制作に役立てる。

【使用テキスト】

山口 真著「四季のたのしいおりがみ事典」（（株）ナツメ社 2006年） 1,404円

【参考文献】

随時紹介する。

科目名： 保育内容 - 表現

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

感性と表現に関する領域「表現」のうち、音楽と身体表現に重点を置き思索、実践します。保育者に問われる基礎的な音楽能力をベースに身体表現力を掛け合わせ、保育の現場で活用することのできるマテリアルと応用力を身につけます。情性や画一性からの解放、感覚をフル回転させた新たなる観察、そして自己の感性に忠実な徹底的な考察を行う能力と勇気を培います。手遊び・体遊び歌・さまざまなワークショップのレパトリーの習得に加え、グループごとに既存の物語を用いた、あるいはオリジナルの簡単な音楽劇の制作と発表を行い、想像力に満ちた多彩な表現の可能性を研究します。

【到達目標】

1. 芸術的共同作業に携わる中で迎合ではなく協調を学ぶ。
2. 自己表現力と繊細な認識力を鍛え、子供の価値観を読み取り、その思いを紐解き寄り添うことのできる保育力を培う。
3. より磨かれた音楽と身体表現力を礎に、保育現場での応用力を身につける。
4. 学んだレパトリーによる実践力を獲得する。

【授業計画】

- | | |
|----------|---|
| 第1回 | オリエンテーション 子供の発達における音楽の力・リズムの力 |
| 第2回～第6回 | 手遊び歌・体遊び歌、季節の歌を使用した表現 |
| 第7回～第8回 | リトミック、音楽表現にかかわるさまざまなワークショップ |
| 第9回～第15回 | 感情表現と演技初歩
音楽劇の制作（必要に応じて「手作り楽器」の制作）、練習および発表 |

【授業時間外の学習】

五感を研ぎ澄まし、日常生活のあらゆるものを自由に観察・認識してみましょ。どのような描写の可能性があるか想像してみてください。

【成績の評価】

課題に取り組む姿勢（50%）、個人的な成果（50%）。この授業で表現の上手・下手や発表内容のクオリティは採点対象にはなりません。個々の努力・学習意欲とその結実度合いは評価されます。

【使用テキスト】

適宜指定します。

【参考文献】

チャイルド本社：幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針

科目名： 保育内容 - 表現

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

幼稚園・保育園の保育の基本理念をふまえ、「子どもにとって表現とは何か」「保育における表現とは何か」さらには「人間にとって表現とは何か」を考察した上で、“動きのスケッチ”による表現の方法を身につけます。

この授業では、今までにみなさんが行ってきた“創作ダンス”とは一味違う身体運動を行います。踊ることが“キライ”という人、からだは“カタイ”という人、人前でパフォーマンスをするのは“ニガテ”という人...も安心して授業を受けてください。この授業をとおして、豊かな人間性を高め、保育実践力を身につけ、保育者としての素養を獲得します。

【到達目標】

1. 自分が見たこと、感じたこと、考えたこと、想像したことなどを自分の身体を媒体にして自由に伸び伸びと動きで表現することができる。
2. 子どもの身体表現の基礎的知識を理解し、実践できるようになることをめざす。
3. 表現活動をとおして、豊かな心と創造力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 人間と表現の関係 《講義》
- 第2回 子どもと表現の関係 《講義》
- 第3回 保育の基本と表現（子どもにとって表現とは何か）《講義》
- 第4回 保育の基本と表現（子どもの表現活動の実際）《講義》
- 第5回 身体の部分を使ってのいろいろな動き 《実技》
- 第6回 身体の全体を使ってのいろいろな動き（2人組での動き）《実技》
- 第7回 身体の全体を使ってのいろいろな動き（音楽に合わせての動き）《実技》
- 第8回 主題に対する表現（小さな動物）《実技》
- 第9回 主題に対する表現（大きな動物）《実技》
- 第10回 主題に対する表現（小さな乗り物）《実技》
- 第11回 主題に対する表現（大きな乗り物）《実技》
- 第12回 作品の分析（創作した作品を分析する）《講義》
- 第13回 作品の分析（舞台作品を分析する）《講義》
- 第14回 総括（子どもの生活における表現活動）
- 第15回 総括（作品づくりのまとめ）、最終レポート

【授業時間外の学習】

授業の終わりに、次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので、グループで予習しておいてください。

【成績の評価】

授業時間内での作品評価：60%

授業態度：30%

最終レポート：10%

* 全体の60%以上の得点で合格とします。

* 授業内で発表する作品の評価は、ビデオ等により振り返り、フィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

杉浦 とく他 『子どもの表現力を高める舞踊』 明治図書

黒川 健一他 『表現』 東京書籍

高橋 和子他 『表現 - 風の卵がころがったとき - 』 不昧堂出版

科目名： 保育内容 - 健康

担当教員： 山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo)

【授業の紹介】

平成20年に改訂された幼稚園教育要領、保育所保育指針では、引き続き「生きる力の育成」をスローガンに掲げています。そのため、本授業では、子どもたちの健康で安全な生活を作り出す専門的知識や判断力を習得し、保育者として保育実践を成し得る基盤を培えるよう取り組んでいきます。

【到達目標】

- ・学生は、子ども自らが「健康で安全な生活を作り出す」ために必要な保育者としての専門的知識や判断力を習得することができる。
- ・学生は、豊かな保育実践を成し得る、「子ども自らが健康で安全な生活を作り出す」ための基盤を培うことができる。

【授業計画】

- 第1回 乳幼児の発達の見方・捉え方
 - 第2回 安定感を持った行動へと導くために
 - 第3回 領域「健康」の変遷
 - 第4回 食を営む力
 - 第5回 施設の安全管理
 - 第6回 基本的生活習慣の獲得
 - 第7回 戸外での遊び
 - 第8回 保育における健康を実習から振り返る
 - 第9回 ケガの対応（応急手当）
 - 第10回 ケガの対応（年齢における安全）
 - 第11回 病気の対応
 - 第12回 運動意欲を育む指導
 - 第13回 保育実践から見えてくること（鬼遊び）
 - 第14回 保育実践から見えてくること（行事）
 - 第15回 全体のまとめと質疑応答
- 期末試験

【授業時間外の学習】

次回の授業範囲の予習として、本授業に関連する幼稚園教育要領および保育所保育指針を確認しておいてください。また、復習としては、授業開始時に説明をした事例内容を再度読み返し理解を深めてください。

【成績の評価】

毎回の学習シートの記入・提出（30%）、保育現場における健康の実践健康のを検討するレポート（10%）、試験（60%）の合計点で評価し、単位認定をします。第1回目に詳しく説明しますので、履修意思のある人は、必ず出席してください。
期末試験の結果は、オフィスアワーの際に解説します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館、2008年）
厚生労働省『保育所保育指針解説書』（フレーベル館、2008年）
河邊貴子・柴崎正行・杉原隆『保育内容「健康」』（ミネルヴァ書房、2009年）

科目名： 保育内容 - 人間関係
担当教員： 中村 多見(NAKAMURA Tami)

【授業の紹介】

人間は、誰かとつながることで生かされている存在です。つまり、人間関係は「生きる力」の原点と言ってもよいでしょう。人間関係が希薄化する現代社会の中、幼稚園や保育所は、乳幼児期の子どもたちにとって、人とかかわりを経験する貴重な場になりつつあります。この窮状に対して、保育者には子どもたちに「人とかかわる力」を育てること、子どもたちの人間関係を家庭や園から地域に向けて押し広げていくことが求められています。子どもたちがより豊かで強くつながり合える人間関係をつくり、それを社会のなかで役立て、幸福に生きることを実現させるための専門的知識と思考力を習得し、保育実践力を発揮できる保育者を目指して学びます。

【到達目標】

次の4つの目標で、みなさんが学科の目指す保育者像に近づくことを目指します。

- ・子どもの「人とかかわる力」を育てることの重要性を理解し、領域「人間関係」に基づく幼稚園・保育所の役割を果たそうと思う使命感・倫理観を高めることができる
- ・長期的な視点に立って、子どもの「基礎的な人とかかわる力」を育てようとする子ども-保育者関係を構築できる人間性を育むことができる
- ・領域「人間関係」に関するねらいと内容に関する専門的知識を身につけ、子どもの「人とかかわる力」の発達とその育て方についての思考力を深めることができる
- ・子どもの「人とかかわる力」を育て伸ばすための保育実践力を発揮できるようになる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 人間関係とは
 - 第3回 領域「人間関係」と保育
 - 第4回 0歳児の人とかかわりと保育
 - 第5回 1歳児の人とかかわりと保育
 - 第6回 2歳児の人とかかわりと保育
 - 第7回 3歳児の遊びと人間関係
 - 第8回 4歳児の遊びと人間関係
 - 第9回 5歳児の遊びと人間関係
 - 第10回 気にかかる子どもへの援助
 - 第11回 特別な支援を必要とする子どもへの援助
 - 第12回 育ちを支える保育者同士の間関係
 - 第13回 育ちを支える保護者と保育者の人間関係
 - 第14回 育ちにかかわる「私たち」の人間関係
 - 第15回 さらに学ぶに向けて：まとめ
- 期末試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業プリントに板書をまとめ、すべて保管しましょう。
また、必要に応じて復習・予習課題に取り組みましょう。

【成績の評価】

成績は授業への出席時に提出される学習シートの内容（10%）と期末試験の結果（90%）で評価します。
学習シートは毎回点検し、コメント等を寄せて返却することでフィードバックします。

【使用テキスト】

田代和美・松村正幸 編著『演習 保育内容 - 人間関係』（建帛社、2010年）

【参考文献】

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
厚生労働省 『保育所保育指針解説』（フレーベル館）

科目名： 保育内容 - 環境

担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

人、もの、自然、社会、文化などの子どもを取り巻く環境について理解を深め、子どもにとってのよりよい環境や、保育環境の中で保育者が果たすべき役割などについて考え、保育実践力を養う授業です。

【到達目標】

- ・保育内容「環境」のねらいと内容を理解することができる。
- ・子どもを取り巻く環境について関心をもち、その中で保育者の果たすべき役割について理解することができる。
- ・子どもにとって望ましい環境を考慮した、具体的な指導内容を構想することができることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、子どもと環境
- 第2回 保育内容「環境」とは
- 第3回 身近な自然・生き物との関わり
- 第4回 文字や記号、数量との関わり
- 第5回 園内外行事との関わり
- 第6回 身近な社会との関わり
- 第7回 園内の環境（1）室内
- 第8回 園内の環境（2）園庭
- 第9回 飼育、栽培、園外保育
- 第10回 領域「環境」と指導計画
- 第11回 領域「環境」と保育方法
- 第12回 領域「環境」と保育の実際（1）具体的な場面を通して
- 第13回 領域「環境」と保育の実際（2）具体的な場面を通して
- 第14回 現代社会における子どもと「環境」
- 第15回 これまでの授業のまとめ
期末試験

【授業時間外の学習】

- ・適宜、レポート課題を指示します。
- ・保育の専門家を目指す者として、自分なりの考えや問題意識をもって毎回の授業に臨んでください。

【成績の評価】

授業中の態度や発言（20%）、レポートおよび演習課題（40%）、期末試験（40%）
レポート等については、授業の中で評価・解説します。

【使用テキスト】

柴崎正行編著『演習 保育内容 環境』建帛社、2009年。

【参考文献】

授業時に適宜、提示します。

科目名： 保育内容 - 言葉

担当教員： 山本 幾代(YAMAMOTO Ikuyo)

【授業の紹介】

乳幼児期における言葉の発達について学び、保育者は、どのように子どものことばをとらえ、援助していくことができるかを学びます。講義（演習）では、子どものことばの実際と保育者の援助の実際について事例を読むことやVTRを通して学び、その援助の背景にあることばの理論や保育の考え方について議論し考えていくことを通して、総合的に学科の目ざす保育者像に近づくことをめざします。

保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育・保育要領では、話すこと、聞くことへの「意欲」を高めることが「言葉」の基本とされています。この基本から言葉の発達に関する保育者の役割を学びます。

【到達目標】

1. 乳児が言葉を獲得し、豊かに表現し書き言葉までの成長の過程を理解するとともに保育者の使命感を身につけることができる。
2. 言葉が育つための環境の条件の保育者であることを理解し、語彙数も表現力も豊かで温かく信頼される人間性をめざす。
3. 子どもや保護者の表現や仕草から伝えたいことを受け止め確かな洞察力や知識や判断力を身につけることができる。
4. 大切な言葉を幼児が主体的に獲得し、心豊かに発達するためには保育者の言葉環境のあり方を知ることができる。

【授業計画】

- | | | |
|------|---------------------------|-------------------|
| 第1回 | オリエンテーション | 保育内容「言葉」を学ぶ |
| 第2回 | 言葉をめぐるワークショップ | |
| 第3回 | 言葉のそだつ道すじ | |
| 第4回 | 言葉の前の言葉 | |
| 第5回 | 一つ言葉で | |
| 第6回 | 人とつながる言葉 | 人とかかわる言葉 |
| 第7回 | 人とつながる言葉 | つながりたい思い出し方 |
| 第8回 | 人とつながる言葉 | 困った時が知恵を出し合う時 |
| 第9回 | 言葉で考える | |
| 第10回 | 言葉で表現する | 遊びからうまれる表現 |
| 第11回 | 言葉でのかかわりに配慮を必要とする子ども | |
| 第12回 | 言葉をめぐる相談の実際と対応 | |
| 第13回 | 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」 | |
| 第14回 | 児童文化財で広がる世界 | |
| 第15回 | まとめ | 子どもの言葉に心をよせて 質疑応答 |
- 期末試験

【授業時間外の学習】

授業時に紹介した本や興味のある本を探して親しみ、自分の言語力や知識を深める。

【成績の評価】

授業中の態度10%、毎回の学習シートの記入内容20%、提出物10%、期末試験60%など評価をします。

ワークショップ・発表の仕方やレポートは、内容・字数・提出日の厳守を評価します。

1回目の授業で詳しく説明します。

期末試験の結果については、オフィスアワーの時間に解説します。

【使用テキスト】

戸田雅美 編著 『演習保育内容「言葉」』（建帛社、2009年）

【参考文献】

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）

厚生労働省 『保育所保育指針解説』（フレーベル館）

科目名： 保育メディア演習
担当教員： 中村 多見(NAKAMURA Tami)

【授業の紹介】

この授業では、パソコンを使って文書作成、画像編集、動画・webページ作成を行います。いまや保育現場でもメディア活用は保育者に必要な専門的知識と保育実践力になっています。園だよりや行事の案内・プログラムの作成、アルバムやムービーの編集、園HPの管理等、「分からない」「できない」ではとても困ります。また、それらメディア活用を適正に行うことも非常に重要です。個人情報保護のもと、著作権や肖像権等にも十分配慮した倫理的なメディア活用についても学びます。

【到達目標】

- 次の4つの目標で、みなさんが学科の目指す保育者像に近づくことを目指します。
- ・ 倫理的なメディア活用を通じて、保育の質を向上させようと思う使命感・倫理観を高めることができる
 - ・ メディアに対する苦手意識を克服し、メディア活用に意欲的な人間性を育むことができる
 - ・ 保育現場におけるメディア活用の実際を知り、適切な文書作成やweb活用ができるようになる
 - ・ 保育現場で役立つ文書作成やweb活用の基本操作を身につけ、保育素材を作ることができる

【授業計画】

- | | | |
|------|--------------------------------|-----------------|
| 第1回 | オリエンテーション | |
| 第2回 | 保育に役立つWeb活用と注意点（著作権と個人情報の保護ほか） | |
| 第3回 | 画像やイラストを使ったアルバム作成 | - 画像編集の基本 |
| 第4回 | 画像やイラストを使ったアルバム作成 | - 画像処理と加工 |
| 第5回 | 画像やイラストを使ったアルバム作成 | - 動画作成 |
| 第6回 | 画像やイラストを使ったアルバム作成 | - 動画編集 |
| 第7回 | 画像・イラストや罫線を使った文書作成 | - 文書作成の基本 |
| 第8回 | 画像・イラストや罫線を使った文書作成 | - レイアウトとデザイン |
| 第9回 | 画像・イラストや罫線を使った文書作成 | - 画像の挿入 |
| 第10回 | 画像・イラストや罫線を使った文書作成 | - 文書入力 |
| 第11回 | 画像・イラストや罫線を使った文書作成 | - 文書アレンジ |
| 第12回 | Webページ作成のための準備 | - 教員紹介・研究室紹介の作成 |
| 第13回 | Webページ作成のための準備 | - 後輩へのメッセージの作成 |
| 第14回 | Webページ作成のための準備 | - アルバム作成・挿入 |
| 第15回 | ホームページビルダーでWebページ作成 | - アレンジメント |

【授業時間外の学習】

課題を期限内に、かつ完成度の高いものを提出できるように、計画的に課題制作に励みましょう。また、授業に必要な材料や情報の収集・整理も必要に応じて準備しましょう。

【成績の評価】

成績は、授業への出席時に送信されるメールの内容（20%）、課題の期限内提出（20%）とその出来栄え（60%）で評価します。課題は保育学科オリジナルホームページに公開できるかどうかを点検してフィードバックとします。必要に応じて調整・修正を繰り返し、順次公開していきます。

【使用テキスト】

テキストは使用しません。

【参考文献】

- ・ 堀田博史・松河秀哉・森田健宏編著『保育・幼児教育に携わる人の情報処理テキスト 幼稚園・保育所の保育実践とメディアの活用』（みるめ書房、2013年）
- ・ 阿部正平・阿部和子・ホソノヨーコ著『保育者のためのパソコン講座 保育事例で習得するワープロ・表計算・プレゼンテーションからホームページ作成』（萌文書林、2006年）

科目名： 保育方法論

担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

本授業では、保育を行う上での基礎的事項や指導上の留意点を取り上げます。ここでの学びを今後の実習等に生かすことができるようすすめ、保育実践力を身に付けていきます。

【到達目標】

- 「保育学科の目指す保育者像」に従い、具体的到達目標を次のように設定します。
- ・子どもの発達に影響を及ぼす「保育者の専門的なアプローチ」の観点から保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高めることができる。
 - ・保育者としての「専門的なアプローチ」に関する継続的学習を通して人間性を育むことができる。
 - ・保育者としての「専門的なアプローチ」に関する専門的知識や判断力を習得できることをめざす。
 - ・豊かな保育実践を成し得る「専門的なアプローチ」の基盤を培うことをめざす。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 一人ひとりに応じた保育
 - 第3回 生活の指導（片づけ、排泄）
 - 第4回 生活の指導（食事）
 - 第5回 保育のすすめ方（設定保育）
 - 第6回 保育のすすめ方（自由保育）
 - 第7回 保育のすすめ方（異年齢保育）
 - 第8回 環境の構成
 - 第9回 子どもの理解
 - 第10回 導入・展開・まとめ
 - 第11回 計画・記録の作成の基本
 - 第12回 計画・記録の作成の実践
 - 第13回 保育者の姿勢
 - 第14回 環境としての保育者
 - 第15回 全体のまとめと質疑応答
- 期末試験

【授業時間外の学習】

次回の授業範囲の予習として、テキストを読んでおいてください。また、復習としては、授業開始時に説明をした事例内容を再度読み返し理解を深めてください。

【成績の評価】

学習シートの記入・提出（30%）、試験（70%）の合計点で評価し、単位認定をします。第1回目に詳しく説明しますので、履修意思のある人は、必ず出席してください。
学習シートについては、授業の中で評価・解説します。
試験結果についてはオフィスアワーで解説することでフィードバックします。

【使用テキスト】

小田豊・神長美津子『新保育シリーズ 保育方法』光生館

【参考文献】

随時紹介します。

科目名： 子ども理解

担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

子どもやその保護者を多方面から捉えることができるよう、子どもをとりまく状況について、その背景を押さえながらすすめていきます。また、幼稚園に出向き子どもたちと関わりながら、実践的に子どもを理解する経験をします。さらに、幼稚園での経験を振り返ることにより、保育者自身（学生自身）の影響を意識した子ども理解に努めることができるようにしたいと考えています。

【到達目標】

「保育学科の目指す保育者像」に従い、具体的到達目標を次のように設定します。

- ・子どもの心身の特性ならびにその特性に応じた保育の観点から保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高めることができる。
- ・子ども理解に基づく保育の継続的な学習を通して人間性を育むことができる。
- ・子どもの心身の特性に関する専門的知識や判断力について「実践の省察」を組み込みつつ習得できることをめざす。
- ・子どもの理解に基づく保育の記録等、望ましい保育実践を支える業務上の技能が向上できることをめざす。

【授業計画】

第1回 子ども理解の必要性
第2回 子ども理解に向けて（自分自身を見直そう）
第3回 子ども理解に向けて（先輩からのアドバイス）
第4回 子ども理解に向けて（基本姿勢を身に付けよう）
第5回 保護者の現状
第6回 子ども理解の方法-エピソード記録を用いて-
第7回 親支援と子ども支援
第8回 子どもの育ちと人のかかわり（観察参加を振り返りながら）
第9回 子どもの育ちと人のかかわり（観察参加の振り返りと子ども同士のトラブル対応）
第10回 子どもの育ちと人のかかわり（観察参加の振り返りと保育者の姿勢）
第11回 子どもの育ちと人のかかわり（観察参加の振り返りと子ども中心の保育）
第12回 子ども理解のまとめ
第13回 子ども理解の共有
第14回 幼保 - 小を見通した子ども理解
第15回 授業全体のまとめと質疑応答
期末試験

【授業時間外の学習】

子ども理解を深めるにあたり、実習等での出来事を振り返りますので、観察記録・日誌などをしっかりと読み返しておいてください。

【成績の評価】

学習シートの記入・提出（30%）、エピソード記録の提出・発表（30%）および試験（40%）の総合点で評価し、単位認定します。第1回目に詳しく説明しますので、履修意思のある人は、必ず出席してください。

学習シート・エピソード記録等は、授業の中で評価・解説します。

また、「子ども理解」と「観察参加」は形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら2つの科目はそれぞれ有機的に連動して学習成果が測られる性格を有するため、2つの科目のうち、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

科目名： 教育相談

担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

この授業は、カウンセリングの基礎理論を学ぶとともに、子どもとの日常的な関わりの中でのカウンセリングの在り方を、具体的な場面を想定しながら、学習し、専門的知識と思考力を身に付け、実践に生かします。

授業の中で、ロールプレーによる簡単なカウンセリング・エクササイズを行います。

また、毎時間の中で、部分的にグループ学習を行います。

学習活動の記録として、学習シートを毎時間提出します。

【到達目標】

1. カウンセリングマインドを身に付けることができる。
2. 子どもの心情を踏まえた幼児理解ができることをめざす。
3. 幼児理解に基づき、臨機応変に適切な援助や助言ができるようになることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 授業内容、方法及びカウンセリングについての解説
 - 第2回 分かりにくい行動見えにくい心(1)傾聴と共感(1)かかわりの始めとして
 - 第3回 分かりにくい行動見えにくい心(2)傾聴と共感(2)繰り返しのかかわる中で
 - 第4回 分かりにくい行動見えにくい心(3)及びポジティブメッセージ(1)信頼関係を築いていくことで
 - 第5回 ポジティブメッセージ(2)子どもの主体性を育てるために
 - 第6回 心とかかわる小さな技法(1)及びリフレーミング(1)日常の様々な場面で
 - 第7回 心とかかわる小さな技法(2)及びリフレーミング(2)課題を感じる場面で
 - 第8回 親面談のこつ及びチューニング(1)
 - 第9回 父親にどうはたらきかけるか及びチューニング(2)
 - 第10回 ソーシャルスキルトレーニング(1)及びメタフォリカルアプローチ(1)子どもに対し
 - 第11回 ソーシャルスキルトレーニング(2)及びメタフォリカルアプローチ(2)保護者に対し
 - 第13回 消極的な子へのかかわり方(1)事例研究
 - 第15回 消極的な子へのかかわり方(2)事例研究
 - 第15回 時事的教育課題と教師のカウンセリングマインド
- 期末試験

【授業時間外の学習】

授業と関連するカウンセリングに関する報道や幼児教育に関する話題についての適宜課題を出します。自分なりの考えをまとめ、授業に臨んでください。

【成績の評価】

エクササイズ・グループ学習を含め、授業への参加意欲・態度(60%)
課題提出や期末試験(40%)を合わせ、総合的に評価します。
記録等は添削して授業時に返却します。

【使用テキスト】

菅野純著『教師のためのカウンセリングワークブック』(金子書房)

【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

科目名： 観察参加

担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko), 柴田 玲子(SHIBATA Reiko)

【授業の紹介】

観察参加は、本学の特色的授業の1つです。本授業の目的・目標・方法等の概要、現場に出る心得等の理解および子どもや保育の観察の仕方を学内で学んだ後、幼稚園に出向きます。そして、保育者と子どもたちのやりとりを見たり、子どもと接する時間を持ちます。その中で、子どもの思いを理解することや、保育者の援助にはどのようなことがあるのか、さらにはその援助の意図を考え、記録にまとめます。

【到達目標】

- 「保育学科の目指す保育者像」に従い、具体的到達目標を次のように設定します。
- ・保育者の職務や役割等の専門性についての観点から、保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高めることができる。
- ・子ども理解に基づく保育の継続的な学習を通して人間性を育むことができる。
- ・子どもの心身の特性に関する専門的知識や判断力について「実践の省察」を組み込みつつ習得できることをめざす。
- ・保育者の職務や役割および保育の記録等、望ましい保育実践を支える業務上の技能が向上できることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 観察参加実習の概要説明
- 第2回 幼稚園における心得・態度
- 第3回 幼稚園の1日・実習園理解
- 第4回 観察記録の必要性
- 第5回 観察記録の書き方（注意事項をまとめる）
- 第6回 観察記録の書き方（サンプルを用いて再確認）
- 第7回 保育の流れを把握する
- 第8回 保育の流れを把握し、援助に加わる
- 第9回 子どもの遊びに入り、個々の子どもの特性を理解する
- 第10回 年齢による違いに触れる
- 第11回 保育者の援助とその意図を探る
- 第12回 保育者の援助とその意図を理解する
- 第13回 屋内外の道具と環境整備（安全管理）を理解する
- 第14回 観察参加の振り返り・今後の課題
- 第15回 授業全体のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習】

現場で学んだ内容を観察記録にまとめ、さらに次の観察参加における各自の課題を見出しておいください。

【成績の評価】

観察参加実習を履修するにあたり、身だしなみ等の事前指導を行います。これを誠実に守ることが、履修の条件となります。

学習シートの記入・提出（10%）観察記録の提出（50%）およびまとめの課題（40%）の総合点で評価し単位認定します。第1回目に詳しく説明しますので、履修意思のある人は、必ず出席してください。

提出された記録等をもとに、授業の中で評価・解説します。

また、「観察参加」と「子ども理解」は形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら2つの科目はそれぞれ有機的に連動して学習成果が測られる性格を有するため、2つの科目のうち、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： 教育実習事前事後指導
担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

教育実習事前事後指導は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるため設定されています。まず、学内において、幼稚園教育実習の目的・目標・方法等の概要、現場に出る心得等の理解および子どもや保育の観察の仕方を学びます。また、幼稚園へ出向き、教育現場での実践活動の状況を観察したり、参加することにより子どもの状況や園の実体について体験を通して学びとります。

本学の場合、実習園の協力を得て長期にわたる（1年後期から2年の教育実習開始直前まで）現場体験を可能にしているため、幼児の実態・幼稚園の保育状況を十分理解した上で実習し、質の高い保育実践力を身に付けることができますようにしています。

【到達目標】

- 「保育学科の目指す保育者像」に従い、具体的到達目標を次のように設定します。
- ・幼稚園教諭の業務や職業倫理について理解し、保育者としての使命感や倫理観を培うことができる。
 - ・自己評価および自己課題の明確化を通して豊かな人間性を育むことができる。
 - ・保育活動に必要な知識や判断力を習得することができることをめざす。
 - ・指導計画の作成・実践・記録・評価を通して保育者として必要な技能、実践力を習得できることをめざす。

【授業計画】

23回の授業計画は形式上個別に記載していますが、本科目は、1,2校時連続して開講されます。

- 第1回 教育実習の概要
- 第2回 教育実習の心得・態度
- 第3回 日誌・指導案の書き方
- 第4回 教材研究の方法
- 第5回 実習園の概要を知る
- 第6回 保育の流れを把握する
- 第7回 幼児の活動を体験する
- 第8回 保育者の関わりを学ぶ
- 第9回 保育者の援助とその意図を理解する
- 第10回 前期教育実習の最終確認
- 第11回 前期教育実習の省察を行う（部分・研究保育）
- 第12回 前期教育実習の省察を行う（生活・遊びの援助）
- 第13回 課題に対する対応（部分・研究保育）
- 第14回 課題に対する対応（生活・遊びの援助）
- 第15回 教材研究（読み聞かせ）
- 第16回 教材研究（表現）
- 第17回 教材研究（ゲーム）
- 第18回 全日指導実習に向けて（注意事項の把握）
- 第19回 全日指導実習に向けて（計画）
- 第20回 全日指導実習に向けて（課題の把握）
- 第21回 後期教育実習の概要
- 第22回 後期教育実習の目標を整理する
- 第23回 後期教育実習の省察を行う

【授業時間外の学習】

幼稚園現場で学んだ内容を観察記録にまとめ、観察参加および教育実習における各自の課題を見出しておくとともに、実技演習や教材準備など積極的に取り組んでください。

【成績の評価】

教育実習事前事後指導を履修するにあたり、身だしなみ等の事前指導を行います。これを誠実に守ることが、履修の条件となります。学習シートの記入・提出（30%）、観察記録の提出（20%）、指導案の提出（20%）、まとめの課題（30%）の総合点で評価します。指導案については、個別に添削し授業にて返却します。第1回目に詳しく説明しますので、履修意思のある人は、必ず出席してください。また、「教育実習事前事後指導」と「教育実習」は形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら2つの科目はそれぞれ有機的に連動して学習成果が測られる性格を有するため、2つの科目のうち、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

授業時にその都度紹介する

科目名： 教育実習

担当教員： 佐々木 利子(SASAKI Toshiko)

【授業の紹介】

教育実習では、毎日決められた幼稚園に行き、保育の内容・方法、保育者の役割や子どものこと等、子どもと関わりながら学びます。本学の場合「教育実習事前事後指導」の中で実習幼稚園での事前学習を行うため、子どもや園の様子をある程度認識した上での実習となります。殊に建学の精神にある「理論と実践の接点を開拓する」ために、事前に立てた実習課題の究明に良い機会であり、しっかりとした理論に根差した保育実践力を身につけることができます。学生にとっては見習い中の実習生であっても、幼稚園は、子どもの命を預かり、かけがえのない日々を過ごしていることを十分認識しておかなければなりません。そのためにも、事前研究も去ることながら体調に留意し、自己管理を怠り無く実習に臨めるよう敢えて付しておきます。

【到達目標】

「保育学科の目指す保育者像」に従い、具体的到達目標を次のように設定します。

- ・幼稚園教諭の業務と職業倫理について具体的に学び、保育者としての使命感や倫理観を培うことができる。
- ・常に自己省察し、課題や新たな目標の明確化を通して、豊かな人間性を育むことができる。
- ・保育者の職務や役割等教職の専門性について理解し、必要な知識を習得することができることをめざす。
- ・子どもの実態を把握し、指導計画の作成・実践・記録・評価を通して、指導力や保育の構築力を養うことをめざす。

【授業計画】

- 前期 < 第1週 >
1. 実習園の概要を知る、1日の流れを把握する
 2. 幼児の遊びの状況を理解し参加する
 3. 年齢段階により遊び、生活、課題への取り組みの違いを知る
 4. 幼児の行動観察、記録とその活用について学ぶ
 5. 実習記録のとり方、反省、評価について学ぶ
 6. 安全に対する配慮、清掃、環境整備のしかたを知る
- < 第2週 >
1. 年間指導計画の中での現在の保育を理解する
 2. 配属クラスの個々の子どもの特徴を知る
 3. いろいろな子どもとの関係を深める
 4. 保育の中の指導と援助のあり方を探る
 5. 部分実習をする
 6. 保育実践の反省、評価を受ける、園行事に参加し、行事の在り方について考える
- 後期 < 第3週 >
1. 前期から比べて子どもの成長発達を理解する
 2. グループダイナミックスの様子を知る
 3. 学級経営について学ぶ（グループ編成、当番活動を含む）
 4. 特別な配慮を必要とする子どもへのかかわり方を知る
 5. 季節の行事に関する保育を知る
 6. 研究保育をする（保育計画を立案し、実践する）
 7. 保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する
 8. 園と家庭との連携についてその意義と方法を知る
- < 第4週 >
1. 保育室の環境整備・経営について知り実践する
 2. 幼稚園教諭について職務内容を理解する
 3. 地域との協力関係、幼稚園の社会的意義を理解する
 4. 園の特色ある保育についての理解を深める
 5. 子育て支援についての特別保育（預かり、延長、未就園児保育等）の現状を知る
 6. 全日保育の計画、実践をする
 7. 総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する
 8. 実習反省会、お別れ会、これからの課題についてまとめ、助言を受ける

【授業時間外の学習】

様々な保育技能を実習現場で生かすことができるよう、各種おもちゃの作製やピアノ等の練習をしっかりと行ってください。

【成績の評価】

実習園からの評価（教育実習評価報告票）に基づき、評価します。
また、教育実習および教育実習事前事後指導は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら2つの科目はそれぞれ有機的に連動して学習成果が測られる性格を有するため、2つの科目のうち、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

随時 資料配布あり

科目名：保育・教職実践演習（保・幼）

担当教員：出木浦 孝 (DEKIURA Takashi) , 佐々木 利子 (SASAKI Toshiko) , 柴田 玲子 (SHIBATA Reiko) , 池内裕二 (IKEUCHI Yuji) , 中村 多見 (NAKAMURA Tami) , 山本 幾代 (YAMAMOTO Ikuyo) , 岡谷 崇史 (OKATANI Takafumi) , 相馬 宗胤 (SOMA Munetane)

【授業の紹介】

保育実習ならびに教育実習を終えた学生を対象に、保育者（先生）になるための2年間の学びを、これまでの学びの復習を含めて総括するとともに、足りない内容を補完する授業です。また、さらなる資質能力の向上を多彩な観点から目ざします。

なお、この科目は2コマ連続授業で実施します。

【教育目標】

1. 2年間の学びの総括として、これまで以上に保育を多角的に考えることができる。
2. 使命感や責任感等をより高めることができる。
3. 社会性をより高めることができる。
4. 子ども理解をより深めることができる
5. 保育内容の指導力を高めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション—本科目の目的と進め方—
- 第2回 実習の振り返りに基づく保育像の再検討—資質向上に向けた討議—
- 第3回 実習の振り返りに基づく保育像の再検討—課題認識—
- 第4回 保育者社会人として必要な心構えに関する演習
- 第5回 保育者・社会人として必要な心構えに関する理解
- 第6回 対人能力向上に関する演習
- 第7回 対人能力向上に関する理解
- 第8回 保育・教育行政の課題と展望に関する理解と演習
- 第9回 中堅保育者との意見交換会—保育者としての心構えに関する講話—
- 第10回 中堅保育者との意見交換会—分科会形式による討議—
- 第11回 乳幼児期の子どもを持つ親との意見交換会—子育てに関する講話—
- 第12回 乳幼児期の子どもを持つ親との意見交換会—分科会形式による討議—
- 第13回 教職倫理に基づく保育職の理解
- 第14回 子育て支援(親支援)に基づく保護者理解
- 第15回 乳幼児期の教育をめぐる特徴的実践に関する理解
- 第16回 保育所や幼稚園等と小学校との連携に関する演習
- 第17回 保育所や幼稚園等と小学校との連携に関する理解
- 第18回 特別支援に基づく幼児・保護者理解に関する演習
- 第19回 特別支援に基づく幼児・保護者理解
- 第20回 保育現場が求める保育者像の理解—保育内容の指導者として—
- 第21回 保育現場が求める保育者像の理解—学級経営の観点—
- 第22回 実地調査と保育実践に関する事前演習
- 第23回 心理学的視点に基づく幼児・保護者理解
- 第24回 実地調査と保育実践—保育者の在り方をテーマに—
- 第25回 実地調査および保育実践—子ども理解をテーマに—
- 第26回 実地調査と保育実践演習の省察演習
- 第27回 実地調査と保育実践に関する事後演習
- 第28回 保育者として社会人としての心構えに関する総括的演習
- 第29回 2年間の総括する演習
- 第30回 まとめ—これまでの2年間の学びを振り返る—

【授業時間外の学習】

1年半にわたる学びを補完させるため、課外で自分の将来を見据えた保育所や幼稚園での保育補助ボランティア活動や保育の理解を深める活動、保育技能を高める活動等を積極的に行ってください。

【成績の評価】

授業に取り組む意欲・関心・態度（50%）、学習ノート等の課題の記入や提出（40%）、まとめの課題（10%）で評価します。

課題の返却により振り返りを行うことでフィードバックします。

【使用テキスト】

授業ごとにプリントを配布します。

【参考文献】

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領